

真鍋 進治 三宅 一

小松島赤十字病院 脳神経外科

要 旨

巨大脳内血腫を伴ったくも膜下出血に対し超急性期に開頭術を施行し、良好な結果の得られた1例を報告する。

症例は57才の女性。突然の意識障害をきたし救急搬送された。頭部CTでくも膜下出血と左側頭葉に脳内出血が認められた。緊急にて脳内血腫除去及び脳動脈瘤頸部クリッピング術を施行した。術後経過は良好である。

キーワード：脳動脈瘤、脳内血腫、くも膜下出血

はじめに

脳動脈瘤が破裂すると多くはくも膜下出血を発症する。そのうち脳実質内に出血をきたす場合があり一般的に症状は重篤である¹⁾²⁾。

今回、巨大脳内血腫を伴った破裂脳動脈瘤に対し超急性期に手術を行い、良好な結果の得られた1例を経験したので報告する。

症 例

症 例：57才 女性

主 訴：意識障害

既往歴：40年前に腰椎の手術（詳細不明）

高血圧症（－）

家族歴：特記すべきことなし

現病歴：1998年6月8日、カラオケ中に突然倒れ救急来院

神経学的所見：意識は半昏睡（E1M3V1）、左瞳孔散大、四肢麻痺（2/5MMT）

頭部CT：くも膜下出血および左側頭葉に脳室穿破を伴った脳内血腫が認められた。正中線は右方へ偏位していた（Fig. 1）。

経過および手術所見：来院時、すでに瞳孔不同が出現しており、失調性呼吸をきたしていた。本来なら脳血管造影を施行し、出血源を確認するべきところだが、一刻を争うため脳血管造影を行わず、直ちに開頭術を施行した。

減圧開頭の必要性も考慮しながら、左前頭側頭開頭とした。骨弁を除去すると硬膜の腫脹が認められ、さらに硬膜を切開すると、側頭葉の著明な隆起と左シルビウス裂にくも膜下出血が見られた。脳表に約2cmの切開を加え、左側頭葉内の血腫を注意深く吸引除去した。十分に減圧ができたところで、顕微鏡下にシルビ



Fig. 1

ウス裂を開放した。左中大脳動脈を中枢側にたどっていくと、先端が側頭葉に癒着した動脈瘤が確認された (Fig. 2)。

動脈瘤頸部にクリップをかけ、正常血管が温存されているか、癒着をはがし先端の出血部位を確認した。

これらの所見より、左中大脳動脈瘤破裂による脳内出血と診断した。

止血を確認した後、硬膜を縫合し骨弁をもどし、頭

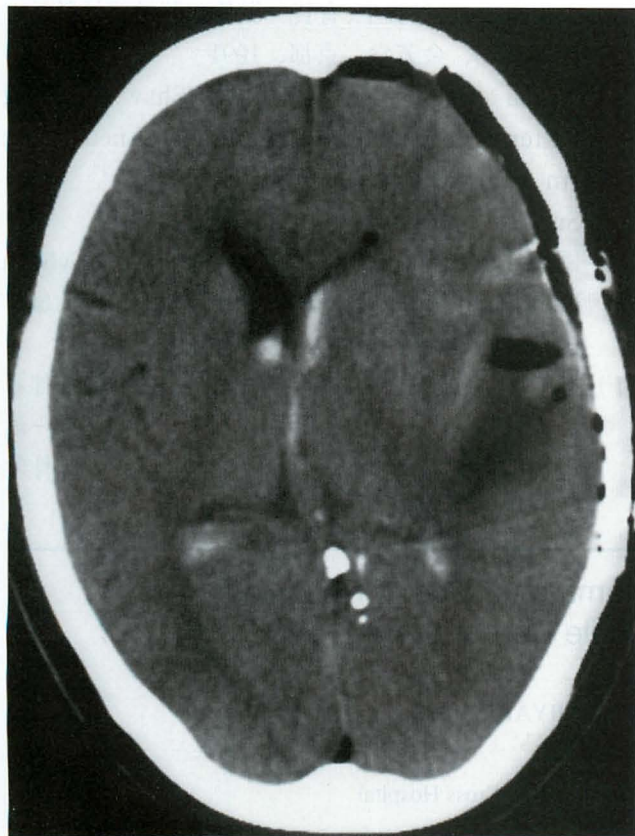


Fig. 2

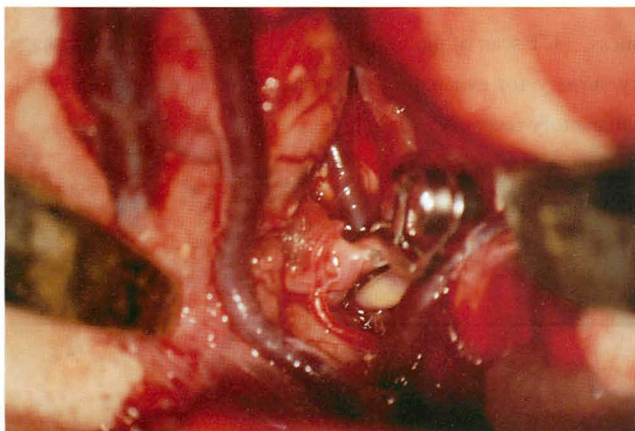


Fig. 3

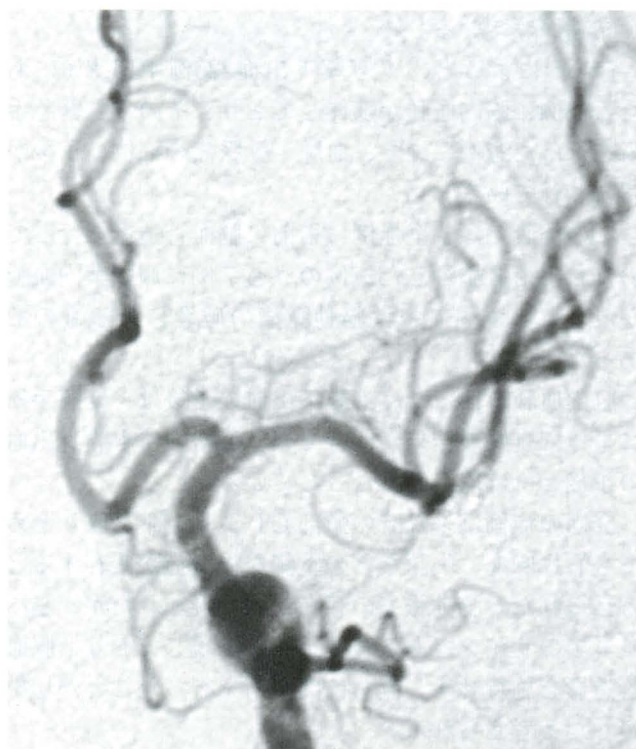


Fig. 4

皮を閉じ手術を終了した。

術後の頭部 CT では脳内血腫は除去されており、正中線の偏位も改善されていた (Fig. 3)。

術後の脳血管造影では、左中大脳動脈瘤は造影されず (Fig. 4)、他の部位に動脈瘤は認められなかった。

意識状態は手術直後より著明な改善がみられた。

軽度の運動性失語、右上肢不全麻痺と Terson 症候群による左視力低下が残存するものの、日常生活は可能であり経過良好である。

考 察

脳動脈瘤破裂による脳内出血はそれほど珍しくはない。しかし、臨床所見および手術成績を述べた報告は少ない。

園部ら³⁾は、中大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血のうち、発症後3日以内に手術を行った83例を報告している。くも膜下出血だけの症例が56例 (67.5%)、シルビウス裂内に血腫の見られた症例が18例 (21.7%)、脳内血腫を伴った症例は9例 (10.8%)であった。

脳内血腫を伴ったくも膜下出血は、血腫の早急な除去により、術前の状態を悪化させずに治療可能である

と結論づけている。

蘇ら⁴⁾によると、くも膜下出血226例中16.8%にあたる38例に脳内血腫が随伴しており、そのうち緊急手術を行った27例につき、血腫・動脈瘤の部位、予後が報告されている。

この施設では、全症例に術前に脳血管造影を行っており、手術を施行した27例のうち7例に側頭葉内血腫がみられ、すべて中大脳動脈瘤の破裂によるものであった。

脳内血腫を伴ったくも膜下出血の予後は、緊急手術によって良好な結果が期待でき、通常のくも膜下出血の予後とほぼ同等だったとしている。

今回の症例は来院時の頭部CTより一命を取りとめても右片麻痺、失語などの重篤な後遺症が残存すると考えられた。脳動脈瘤の存在が強く疑われたが、脳ヘルニアのサインである瞳孔不同が出現しており、脳血管造影を施行せず、直ちに開頭術を行ったことが功を奏したと考えられる。

おわりに

1. 左中大脳動脈瘤の破裂による脳内血腫に対し、超急性期に手術を施行し、経過良好な1例を報告した。
2. 脳内血腫を伴うくも膜下出血は、早期の血腫除去により良好な結果が期待できると考えられた。

文 献

- 1) 太田富雄、松谷雅生、有賀 徹他：脳神経外科学：p623-625、金芳堂、京都、1991
- 2) Arden F.Reynolds, Cheng-MeiShaw : Bleeding Patterns from Ruptured Intracranial Aneurysms : An Autopsy Series of 205 patients. Surgical Neurology 3 : 232-235, 1981
- 3) 園部 眞、高橋慎一郎、杉田京一他：Sylvian hematoma を形成した破裂中大脳動脈瘤の治療。国立水戸病院議事録 17 : 11, 1992
- 4) 蘇慶展、大久保忠男、斎藤桂一他：脳内血腫を伴ったくも膜下出血の臨床所見及び緊急手術結果—最近7年間27例の検討—。第27回脳卒中の外科学会：176, 1998

A Case of Giant Intracerebral Hematoma Due to Ruptured Aneurysm of The Left Middle Cerebral Artery

Shinji MANABE, Hajime MIYAKE

Division of Neurosurgery, Komatsushima Red Cross Hospital

We report a case of subarachnoid hemorrhage with intracerebral hematoma that was treated with emergency craniotomy and made an excellent recovery.

This 57-year-old woman was hospitalized for loss of her consciousness. CT scan of the brain revealed subarachnoid hemorrhage and the left temporal lobe hematoma. She was taken to emergency surgery for evacuation of intracerebral hematoma and neck clipping of a middle cerebral artery aneurysm. The patient made a satisfactory recovery.

Key words : cerebral aneurysm, intracerebral hematoma, subarachnoid hemorrhage

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 4 : 36—38, 1999
